

## 幹事会における論点整理について

### 1 協議の経過

5月26日の第2回統合新校推進協議会において、統合新校の位置及び通学区域に関して、校地・校舎等の条件、通学の条件の視点から説明を行い、協議を行った。また、第2回統合新校推進協議会終了後に7名から意見提出があった。

これらの意見を踏まえ、幹事会にて、第3回統合新校推進協議会に向けた論点整理を行った。

### 2 第3回統合新校推進協議会に向けた論点整理

#### (1)第3回協議会の協議事項

統合新校の位置の決定にあたっての考え方(優先的な指標)を整理し、望ましい統合新校の位置及び通学区域の方向付けを行う。

#### (2)統合新校の位置に係る意見の整理(第2回協議会における意見及び意見提出用紙による意見)

全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校地決定について、条件を見るかぎり、どちらになっても充分とはいかず、ある程度の妥協をしての決定として受け入れると思う。</li> <li>○ 教育環境が整っていれば第七中学校・第九中学校どちらでもよい。決定的な強い選択は我々では難しい。</li> <li>○ 合併して、新校舎ではない方の施設はどのような物を作るのか、大筋でもわかればと思います。区の施設なのか、売却なのか、学校がなくなった空き地はなにになるのかで、判断材料としては変わってくると思います。</li> <li>○ どちらでも構わない。</li> </ul>
通学の条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 【中学校長】通学上の安全性の面では、どちらの校地も条件は違うものの、中学生であれば安全性に配慮しながら通学できるものと考えている。通学時間については、隣接中学校に通う生徒がいることを考慮すれば、20分程度というのは体力的にも問題がないと考えられる。</li> <li>○ 第九中学校校地だと西小山駅、洗足駅から徒歩で行けて交通の便はよいと思います。今後は全国的に、部活の顧問を外部委託にする傾向もあるようですし、でも生徒側の通いやすさとなると第九中学校校地は目黒区のはじっこなので、また違うかもしれませんが。</li> <li>○ 第七中学校、第八中学校は距離も近く両方統合新校となると通学距離が長いからと隣接学区への通学を選ぶことも難しい場合があるのではないかと。</li> <li>○ 第九中学校の校地にしたほうが目黒区全体を見るとバランスがいいように思います。第七中学校だと学校が区の真ん中に集まりすぎている気がします。区の施設を真ん中に集めるのは良いことだと思います。学校こそ目黒区の外側で、第七中学校跡地を区民の集まる施設にするのはどうでしょう。区民施設は中央のほうが使い勝手はいいと思います。バスも通りやすいと思いますので。</li> </ul>

校地・  
校舎等  
の条件

- 第二体育館のように体育館を二つ作る予定はないか？統合して生徒数が増えれば、各部の部員も増え、体育館一つでは活動がままならなくなるのではないか。
- 【中学校長】生徒が学校で日常的に活動するうえで校庭の広さは非常に重要である。昼休み等で毎日使用し、また体育の授業ではトラックのコーナーが大きい方が怪我につながりにくい。行事や体育祭を実施するに当たっては、安全な広さ、形状のトラックを確保するとともに、その周りに見学者のスペースが十分にあることが大切である。

校舎の形状、教室の配置については、普通教室に午前中から陽が入る、自然採光が取り入れられることが大切であると考えている。
- 【中学校長】計画例はあくまで一例として捉えている。生徒が活動する場所として、体育館やグラウンドの広さというのは重要である。

まず、グラウンドについてだが、区内の学校のほとんどが 150mのトラックであるが、その中でも縦長になっていて、かなりコーナーがきつくなっている学校もある。そのため、できるだけコーナーを大きくとれることを考えていただきたい。さらに最大 18 学級を想定する場合には、トラックの外に6レーン取ることが必要となり、そこから外れるとすぐに校舎にぶつかるような状況では生徒の安全性を確保することができないことから、トラックの周りのスペースについても考慮いただきたい。

部活動について、グラウンド、体育館ともに複数の部活動が使うことが想定されるため、それに必要な広さの確保が必要である。部活動の地域への移行という話もあるが、そういったことも考えると校庭の防球ネットの高さも地域の安全にもつながるので考慮いただきたい。体育館については、1.5 倍の広さと想定した場合、その 1.5 倍がどのように使われるのかが重要である。様々な活動があるので、倉庫やステージなどを除いた、実際に活動できるフロアの広さについて十分に検討いただきたい。

生徒たちが活動するグラウンド、体育館は健やかな体づくりにつながる重要な場所になる。敷地の広さ、向き等様々な制限があるが、可能な限り配慮いただきたい。
- グラウンドの広さが課題として提示されたが、様々な部活動があるなかでグラウンドの形状も重要である。
- グラウンドの広さが課題であるならば、二校のうち一校の敷地をグラウンドにする方法もあるのではないか。
- 清水池公園近辺では、建築する際に池が近いこともあり水が出る。たとえば一階部分を半地下にし、校舎部分を節約できれば広いグラウンドの確保も可能なのではないか。
- 小中連携を考えると小学校の野球とサッカーくらいはできるようなグラウンド環境が望ましいと思います。第九中学校校地のほうが土地に高低差があるとのことで工事の費用が高くなりそうですが、その分校舎や施設の費用を圧迫するようだと第七中学校校地にしたほうがより良い校舎ができる気がします。それはあくまで校舎だけの話です。ただ、第九中学校校地のほうが敷地面積が広いので、上記の小学生が使えるグラウンドの状況も考えると第九中学校校地のほうが広いのでいい学校になりそうです。そういう意味で費用がどうなるのか気になります。学校統合に関してある程度の予算はとっているとして、高低差の予備工事など予備費でどうにかなるのであれば、第九中学校を校地にしたほうがいいと思います。

### (3)幹事会からの提案

第七中学校と第九中学校のどちらの校地になった場合でも、通学の条件では大きな差がないことから、より良い教育環境を整える観点から校地・校舎等の条件を優先的な指標として、統合新校の位置及び通学区域を決定することが望ましい。